

多介具久能佐和多流伎波美云云。六卷。山乃
曾伎野之衣寸見世伴部。斑遣山彦乃将應極國方
乎見之賜而云云。谷潜乃狭渡極云云。など見えある
こまふり。さい佐和多流の佐を助録して。この物野
山の果まで。靈異く行渡るものふまむ。古を例言ふ
志う云熟きもの空がまこえとる。上は心る。島
ング。いの在状。古事記。神世。大國主神。生出雲之
御大御前時。自波總云々有歸來神。尔雖問其名不答
且雖問所從之謂神皆白不知。爾多近具久白言。此者
久延毘古必知之。即召久延毘古問時。答曰。此者神産

巢日神之御子。少名毘古那神。と見えある多近具久
も。万葉集に書る字のおとく谷潜。一。常山山谷
不。住。行むと思ふ時。野山に極まで。靈異く
潜。行。義の名なる。然らむ多近具久といふ
多。連聲の文。揚音の轉。多近具久といふ
多。久。久。と書る。字のごとく。清。唱。へ。と。書。し
る。ハ。上。文。不。駕。我。久。久。と。○。加。幣。良。乃。加。用。布。岐
波。美。加。幣。良。也。加。伊。問。良。也。船。の。權。な。る。を。上。古。に
て。問。良。と。い。ふ。言。致。加。伊。之。と。云。ひ。又。加。伊。の。伊。を。略
死。に。加。幣。良。と。云。え。し。な。る。處。し。を。加。伊。也。新。撰

堂心ふと。鉄毘良足とも川へ。惠心僧都の作
と高乎絡付と。秦、廣隆寺牛祭祭文に。久波比良足仁の
と云ひ。徒、又布呂とも。或ハ鈕夫呂鉄夫呂
と能合んべし。式、祈年祭。次祭。月祝詞。青海原者。棹
枚不于舟。艦能至留極云。と堂見元堂も。此の加幣
良乃加用布岐波美と云。等影と。主左ら同趣。不古
言。了。棹。和名抄。依。加伊。と。と。棹枚。加
伊比良。と。と。棹枚。加伊比良。と。と。む。屋。章。礼。志。
加伊幣良。と。云。ふ。と。同。言。な。る。と。古。事。記。仲。哀。段。は。旣。櫛。櫛。
の。佐。手。加。邊。と。訓。き。是。留。日。隨。ひ。な。ほ。他。書。は。三。元。と。
舟。證。字。引。き。祈。年。祭。祝。詞。も。本。の。中。に。棹。枚。と。書。て。
枚。と。書。き。諸。本。と。も。は。三。不。枚。字。を。書。き。の。祝。詞。も。書。て。後。人。の。棹

語。寫。と。ハ。お。も。を。れ。也。然。る。を。固。部。籍。の。祝。詞。考。と。と
と。あ。く。枚。を。枕。日。改。免。棹。枕。と。作。き。て。サ。カ。ガ。と。
万。葉。集。に。見。え。て。阿。麻。天。祿。麻。可。洛。加。伊。奴。吉。二。
集。は。万。葉。集。十。七。卷。阿。麻。天。祿。麻。可。洛。加。伊。奴。吉。二。
と。と。め。り。万。葉。集。十。七。卷。阿。麻。天。祿。麻。可。洛。加。伊。奴。吉。二。
明。以。其。を。考。ふ。加。伊。と。以。ひ。其。さ。ま。の。古
く。き。こ。え。と。万。葉。集。卷。九。小。船。都。良。奈。米。真。可。以。可。氣。伊。許。藝。米。具。
伎。ま。卷。九。小。船。都。良。奈。米。真。可。以。可。氣。伊。許。藝。米。具。
礼。婆。万。二。卷。淡。海。乃。海。手。榜。来。船。奥。津。加。伊。痛。勿。波。
祢。曾。邊。津。加。伊。痛。莫。波。祢。曾。若。草。乃。孺。之。念。鳥。立。由。堂。
八。卷。玉。纏。之。真。可。伊。毛。我。母。毛。何。云。小。棹。朝。奈。藝。尔。伊。可。
伎。渡。云。と。ふ。や。三。え。と。梨。○。波。多。乃。廣。物。波。多。乃。狹。物。
辛九

毛乃荒物。毛乃和物。供御雜物等。古事記神代。火照命者。為海佐知昆古而取。鱸廣物。鱸狹物。火遠理命者。為山佐知昆古而取。毛廣物。毛柔物。と見え。鱸廣物。鱸狹物。諸魚の大きぬる小き字云云。毛荒物。毛和物。諸獸を以て。古文より。書紀神代卷。も見え。道饗祭。祝詞。山野介住物者。毛能和物。毛乃荒物。青海原介住物者。鱸乃廣物。鱸乃狹物。奥津海菜邊津海菜。尔至万豆介云々。遷却崇神祭祝詞。山介住物者。毛乃和物。毛能荒物。大野原介生物者。甘菜幸菜。青海原介住物者。鱸廣物。鱸狹物。奥津海菜邊津海菜。尔至万豆介。

はども見え有り。や高此氏文なる詞也。山野より柔て獸取心云。海川よりやて魚を云云。雜物と云る係中。いはゆる甘菜幸菜海菜の類也。おのづからこをりてきさ。○兼攝てフサ子等とむべし。書紀は慈攝をよみ。名義抄は惣フサ又。上のくきり此事と色葉字類抄。京都字をよみ。取仕奉まゝと依しぬ。成。兼攝取持て。上はと齋忌取。仕奉まゝと依しぬ。成。

賜誓賜天。依賜岐。王子磐鹿六獨命。諸友諸人等。手催率天。慎勤仕奉。止。仰。如是依賜事。彼朕我獨心。非矣。是天生神乃命。叙朕我。賜誓賜天。依賜岐。

同言して。其ハ恐おそみをかかしこまりといふことく。然しかも以もへるなり。但し慎謹しんじんふどハ。漢籍かんせきよりつ祿ろくに多く用もちへる字じにて。もちらう心こころの上うへよりあるまひ。或ハ礼れい容かみよりつきいいへる意いたるが多おほきを。皇國すうこくよりつつくこのむといふ言ハ。もろづの事を行ふへは。過失あやまなくものむと。心を入るよりつきいいへるが多し。此こるより行事こうじよりつているり。信言しんげんより大切せきにごとき意いたるを。なれ物語ものがたりふこるども。勤いんて。文德實錄ぶんとくじつろく四卷し滋野しよのに。榑原ふきはら東人とうじん。天平勝宝元年ていへいしやうほうねん為駿河守まゐら。于時このとき土出つちで黄金こがね東人とうじん採而献之とみりてけんじ。帝美其功みそのとくを曰勤哉いんけい臣也しんじ。遂取ついでにとり

勤いん臣しん之の義ぎ賜たま姓せい伊蘇志臣いそししん。仲哀紀に。即美五十迹手。曰伊蘇志。この事筑前風土記又見また續紀つづき元年ねん四月しがつ此詔詞このしむことば。伊蘇之美いそしのよし宇牟うむ賀斯美かすみなどみえまめめるなり。信言しんげんより出精しやうとやて此言ことば此これと右みぎ伊佐乎いさ志し。其ハ勇雄ゆうゆうの意いたるを。活いして伊佐乎志いさといひ。又伊佐乎志支いさ伊佐乎志久いさふともいひ。又その佐乎さ切きてハ伊蘇志いそしと云い。まま伊蘇志支いそしし伊蘇志久いそしきうともいひ。海うみ伊蘇志美いそしめ伊蘇志牟いそしむともいひ。その證しるしをいてむまハ。説長せつちやうともいひ。○仰賜誓賜天依賜岐誓おほたまはせたまひ。依賜岐誓いみきせ。能美難箇のよし。この

宇氣譬といふて。何なる事ある時。志らくと真心
此決免す。其字違ふと堅むるを云ふ言ふて。人と
互に為るう處も。此方むり為るまも云記。其は
う事のさゆまをりて。又異なるかまきこ遊めを
阿まど。いひもての意を同意は歸るなり。此なるを
天皇六獨命。上乃くそのの事。母字命をひ。大
御自誓ひて任しゆするなり。六獨命も。此詔を畏奉
の意あり。あぢも心悟るは。ふ本誓此も
是時上総國安房大神宇御食都神止坐奉天為若湯生
連等始祖意富賣布連之子。豊日連宇令火鑽天此宇忌

火止为天伊波比由麻々間天供御食並大洲尔像天
八乎止古八乎止呼定天神嘗大嘗等仁供奉始文但云
令鑽忘火大神伴造者物部豊日連之後也。今
上総國安房大神安房も上も以て居るご堂く。其の
上上総此國內の地名なるを。神名も肩をて松へ坐
るなり。此神の事も下此注も見えり。○御食津神
止坐奉天。坐字。月令。脱。秘。天皇の御食の神と
して。此御膳屋も請坐し免ゆるなり。但し坐字。秘
と作。り。かくて。○為若湯坐連等始祖意富賣布連之
子。豊日連。若湯坐の下此連字。月令。脱。若湯坐連
字。

始祖の六字也。上は記しされむ。再、云守るを
以多清らなり。記しきるのと、此をさるるなり。
都意富賣布連之子 豊日連。下文此注、物部、豊日連
云。と書いさところなり。此人、あきらかに。○今火鑽天。名
と見え、是なり。書し見あきらかに。○今火鑽天。名
義抄に。鑽、鑽をヒキリと訓也。古事記、國、主神
り。梯八玉神為膳夫。天御饗之時、禱白而梯八玉神
云々。鑽出火云。以我所鑽火者云。鑽火の事傳に委
の術ハ。予が正。○此乎忌火止为天。忌火一本。谷川本
ト考は。注あり。天、字月令又脱。忌火、イミビ、少とむ
多あり。秘抄、又とて補へり。忌火を、得るに。撃つ
登し。忌清、免る火の由あり。凡く火を得るに。撃つ

と、礮、礮との別あり。上代より殊に忌て清くある
火ハ。皆鑽出ることあり。今に至るまで。伊勢大神
宮の御饗炊く。鑽火を用ふる例なりと。其餘、
の大神社、社中。然る例にも。江家次第。忌火、御
の、事、此、こききこえり。一條、兼良公の同書、此抄、
飯、日、早、具、供、之内、膳、司、一、條、兼良公の同書、此抄、
今、按、忌火、每、至、神、態、鑽、火、炊、爨、謂、之、忌、火、也。
秘抄、同條に。日記云と。同公の公事根源同條。景
載、と、と、同文なり。

火ヲ忌ム。今モ公、神事ハサルモノニテ。實茂社ナト三常ニイト嚴ニ
忌ミテ。奉社ノ社人ノ家ニ。内ト用フル火タニ。檜枝モテ鑽出シテ用
フトリ。世ノ人ト物ヲ食合ス。ト忌ムモノノ故ナリ。公様モ神事ノ同ハ
シカア。ト尋常ハサモアラス。出雲國造ナトモ火ヲ嚴ニ忌ムヨリ
及。伊勢神官モ然ルヘシ。凡未聞及。

こ、後
音、便、不
其、不、然、僧

徒の忌ま^くき事行ふ時^はある。下大を近世
の唐書^はさ^らに^して^は習ひ^てるに^く。此^もも
るす^しき^さら^しに^して^は江次第^の○伊波比由麻
不^るも。古本^はも^して^は○伊波比由麻
開天供御食^秘月令麻字一^つ脱^きり。伊波比^に急^ん上
此齋^忌の下伊牟^と同言^あ不^字。如此^も活^りして^は
存^り。由麻麻開^る。祚年祭祝詞^に。忌部能弱肩^介。大^多
須支取掛氏^持由麻波利^仕奉礼^留幣帛^手神嘗祭祝
詞^に。太禰取懸天^持齋波里^と三^え。由^は此^下文^に。伊
波比由麻波理^と以^へる由麻波里^と同言^不。由^て
忌^むの伊^を通^ず音^を轉^じし^るに^て。由庭^湯貴^湯鉞^齋
種^なとの由^も同^じ。但^し此^の文^はこ^の由^麻々^開

字活^りして^は云^ふ存^る例^も。他^に見^あら^るを^れ免^ふ
と記^す古言^とを^記こ^え多^敷。崇^すへ^解は^るに^て以^ふ
さて伊波比^も。由麻々^開。其^も忌^む意^にて^は同言^水
不^るを^らく^置括^て云^ひ。下文^に伊波比由麻波利^字以^て
存^るも。其^も古言^の文^をさ^らえ^て免^ふた^し○並大
八洲介像天。八乎止古八乎止^呼定天。大八洲^に。古事
記國生^段不^{。以}八嶋^先所生^謂大八嶋^國と見^える
古事^不。大皇國^に惣^号とも^りき^る事傳^に注^され
る^がと^し。其^も大八洲^の数^に像^をて^は。八乎止古八乎
止^呼字^定る^由なり。像^て字^書不^肖似^也。募^倣也^不